

平成 2 8 年度

甲州市公営企業会計決算審査意見書

甲州市監査委員

甲 州 監 第 1 4 号
平成 2 9 年 8 月 1 8 日

甲 州 市 長 田 辺 篤 様

甲 州 市 監 査 委 員 長 瀬 静 男

甲 州 市 監 査 委 員 古 屋 久

平成 2 8 年 度 甲 州 市 公 営 企 業 会 計 決 算 審 査 の 意 見 に つ い て

地方公営企業法第 3 0 条第 2 項の規定により審査に付された、甲州市水道事業会計、甲州市勝沼ぶどうの丘事業会計及び甲州市勝沼病院事業会計の収支決算及び証拠書類を審査した結果について、次のとおり意見を提出する。

目 次

1	審 査 の 対 象	1
2	審 査 の 期 間	1
3	審 査 の 方 法	1
4	審 査 の 結 果	1

水 道 事 業 会 計

(1)	業 務 の 実 績 に つ い て	2
(2)	予 算 の 執 行 状 況 に つ い て	3
(3)	経 営 成 績 に つ い て	5
(4)	財 政 状 況 に つ い て	6
(5)	資 金 収 支 の 状 況 に つ い て	7
(6)	審 査 所 見	8

勝 沼 ぶ ど う の 丘 事 業 会 計

(1)	業 務 の 実 績 に つ い て	9
(2)	予 算 の 執 行 状 況 に つ い て	10
(3)	経 営 成 績 に つ い て	12
(4)	財 政 状 況 に つ い て	13
(5)	資 金 収 支 の 状 況 に つ い て	14
(6)	審 査 所 見	15

勝 沼 病 院 事 業 会 計

(1)	業 務 の 実 績 に つ い て	16
(2)	予 算 の 執 行 状 況 に つ い て	17
(3)	経 営 成 績 に つ い て	19
(4)	財 政 状 況 に つ い て	20
(5)	資 金 収 支 の 状 況 に つ い て	21
(6)	審 査 所 見	22

平成 28 年度甲州市公営企業会計決算審査意見

1 審査の対象

平成 28 年度 甲州市水道事業会計決算
平成 28 年度 甲州市勝沼ぶどうの丘事業会計決算
平成 28 年度 甲州市勝沼病院事業会計決算

2 審査の期間

平成 29 年 6 月 12 日から平成 29 年 6 月 30 日まで

3 審査の方法

審査に付された、決算報告書、事業報告書及び財務諸表について、証拠書類、関係諸帳簿等との照合や関係職員から内容を聴取し、審査を行った。

4 審査の結果

審査に付された決算報告書、事業報告書及び財務諸表は、地方公営企業法等関係法令に準拠して作成されており、計数は関係諸帳簿、証憑書類と符合し、誤りのないものと認められた。

予算執行及び事務処理については、一部の会計に留意、改善されたい事項があるものの概ね適正に処理されているものと認められる。

審査の概要は次のとおりである。

(注) 本書において、表示数値未満は四捨五入した。

水道事業会計

(1) 業務の実績について

業務実績は、以下に示すとおりである。

業務実績比較

区 分	単位	平成 28 年度	平成 27 年度	比較増減
総 人 口	人	32,650	33,112	△ 462
給 水 区 域 内 人 口	人	19,208	19,458	△ 250
給 水 人 口	人	19,188	19,438	△ 250
対 給 水 区 域 内 人 口 普 及 率	%	99.9	99.9	0.0
給 水 戸 数	戸	7,924	7,930	△ 6
総 配 水 量	m ³	2,860,760	2,824,575	36,185
有 収 水 量	m ³	2,060,214	2,101,816	△ 41,602
有 収 率	%	72.0	74.4	△ 2.4
配 水 管 延 長	m	145,468	143,957	1,511
1 m ³ 当 り 給 水 原 価	円	190.88	181.68	9.20
1 m ³ 当 り 供 給 単 価	円	173.80	174.75	△ 0.95

備考 給水戸数及び給水人口は、各年度末の数である。

上水道区域の給水戸数は 7,924 戸であり、前年度と比較するとわずかに減少している。また、給水人口は 19,188 人で、前年度比 250 人少なく漸減傾向にある。

総配水量は 2,860,760 m³で、前年度比 36,185 m³増えている。有収水量は 2,060,214 m³で、前年度比 41,602 m³の減であり、有収率は 72.0%で前年度比 2.4 ポイント低下している。

供給単価は、1 m³当り 173 円 80 銭で前年度比 95 銭減っており、その要因は、給水収益の減少割合より有収水量の減少割合が少なかったためである。また、給水原価は、1 m³当り 190 円 88 銭で、前年度比 9 円 20 銭増えており、その要因は、営業費用が増えたためである。

(2) 予算の執行状況について

予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には、消費税及び地方消費税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
水道事業収益	483,204,000	473,940,844	△ 9,263,156	98.1
営業収益	419,388,000	408,792,329	△ 10,595,671	97.5
営業外収益	63,803,000	65,148,515	1,345,515	102.1
特別利益	13,000	0	△13,000	0.0

収益的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
水道事業費用	446,609,000	425,482,304	21,126,696	95.3
営業費用	412,799,000	393,805,036	18,993,964	95.4
営業外費用	31,798,000	31,622,214	175,786	99.4
特別損失	210,000	55,054	154,946	26.2
予備費	1,802,000	0	1,802,000	0.0

事業収益は 473,940,844 円（うち仮受消費税及び地方消費税 29,979,659 円）で、予算額と比べ 9,263,156 円（1.9%）の減であり、事業費用は 425,482,304 円（うち仮払消費税及び地方消費税 22,933,532 円）で、予算額に対し 21,126,696 円（4.7%）の不用額が生じている。

資本的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額 の比較増減	収入率(B)/(A)
資本的収入	18,207,000	28,723,320	10,516,320	157.8
負担金	5,355,000	5,626,800	271,800	105.1
補償金	12,852,000	23,086,520	10,234,520	179.6
固定資産売却	0	10,000	10,000	0.0

資本的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	翌年度繰越額	不用額	執行率(B)/(A)
資本的支出	181,518,000	167,099,139	0	14,418,861	92.1
建設改良費	115,792,000	101,374,540	0	14,417,460	87.5
企業債償還金	65,726,000	65,724,599	0	1,401	100.0

資本的収入は28,723,320円で、予算額と比べ10,516,320円(57.8%)の増であり、資本的支出は167,099,139円で、予算額に対し14,418,861円(7.9%)の不用額が生じている。

(3) 経営成績について

経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

比較損益計算書

(単位：円・%)

科目 \ 区分	平成 28 年度 決 算 額	平成 27 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
水道事業収益	443,961,185	454,258,222	△10,297,037	97.7
営業収益	378,896,012	384,804,006	△5,907,994	98.5
営業外収益	65,065,173	69,454,216	△4,389,043	93.7
水道事業費用	402,548,772	392,219,864	10,328,908	102.6
営業費用	379,650,382	367,868,100	11,782,282	103.2
営業外費用	22,847,414	24,328,433	△1,481,019	93.9
特別損失	50,976	23,331	27,645	著増
当年度純利益	41,412,413	62,038,358	△20,625,945	66.8

経営成績は、決算書の損益計算書でみるとおり、事業収益は 443,961,185 円で、前年度比 10,297,037 円 (2.3%) の収入の減であり、事業費用は 402,548,772 円で、前年度比 10,328,908 円 (2.6%) の支出の増となった。

その結果、本年度の純利益は 41,412,413 円となった。

ア 収益

営業収益は 378,896,012 円で、前年度比 5,907,994 円の減であり、これは、その他営業収益 4,203,465 円の増、給水収益 9,228,459 円、受託工事収益 883,000 円の減によるものである。また、営業外収益は 65,065,173 円で、前年度比 4,389,043 円の減であり、これは、受理利息及び配当金 698,028 円の増があった一方で、長期前受金戻入 2,316,258 円、雑収益 2,565,813 円、他会計補助金 205,000 円の減などによるものである。

イ 費用

営業費用は 379,650,382 円で、前年度比 11,782,282 円の増であり、これは、配水及び給水費 9,370,451 円、総係費 3,647,710 円、資産減耗費 3,001,901 円の増があった一方で、原水及び浄水費 262,500 円、受託工事費 393,629 円、減価償却費 2,896,966 円、その他営業費用 684,685 円の減によるものである。また、営業外費用は 22,847,414 円で、前年度比 1,481,019 円の減であり、これは、支払利息及び企業債取扱諸費 1,435,485 円、雑支出 45,534 円の減によるものである。特別損失は 50,976 円で、前年度比 27,645 円の増である。

(4) 財政状況について

財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・%)

科目	区分	平成 28 年度 決 算 額	平成 27 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
借方（資産）		4,610,706,899	4,669,471,907	△58,765,008	98.7
	固定資産	3,550,141,874	3,576,936,624	△26,794,750	99.3
	流動資産	1,060,565,025	1,092,535,283	△31,970,258	97.1
貸方（負債・資本）		4,610,706,899	4,669,471,907	△58,765,008	98.7
	固定負債	1,087,153,764	1,167,597,335	△80,443,571	93.1
	流動負債	96,192,003	98,784,729	△2,592,726	97.4
	繰延収益	1,191,213,548	1,208,354,672	△17,141,124	98.6
	資本金	1,779,236,367	1,779,236,367	0	100.0
	剰余金	456,911,217	415,498,804	41,412,413	110.0

財政状況は、決算書の貸借対照表で見るとおり、資産合計及び負債・資本合計は共に 4,610,706,899 円であり、前年度比 58,765,008 円（1.3%）の減となった。

ア 資産

固定資産は 3,550,141,874 円で前年度比 26,794,750 円の減であり、これは主に、構築物 29,725,543 円の減などである。また、流動資産は 1,060,565,025 円で、前年度比 31,970,258 円の減であり、これは主に、現金預金 23,083,374 円、未収金 7,902,027 円の減などによる。

イ 負債

固定負債は 1,087,153,764 円で前年度比 80,443,571 円の減であり、これは、企業債 68,243,571 円、引当金 12,200,000 円の減によるものである。次に、流動負債は 96,192,003 円で、前年度比 2,592,726 円の減であり、これは主に、未払金 6,500,489 円の減などによるものである。また、繰延収益は 1,191,213,548 円で前年度比 17,141,124 円の減であり、これは長期前受金 30,624,961 円の増などによるものである。

ウ 資本

資本金は 1,779,236,367 円で前年度と同額である。また、剰余金は 456,911,217 円で前年度比 41,412,413 円の増であり、これは建設改良積立金 62,038,358 円の増であり、当年度未処理分利益剰余金 20,625,945 円の減などによるものである。

(5) 資金収支の状況について

資金収支の状況は、次表のとおりである。

キャッシュフロー計算書（間接法）

（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

（単位 円）

(営業活動)		(投資活動)	
当期純利益	41,412,413	有形固定資産の取得による支出	△94,292,061
減価償却費	121,168,075	有形固定資産の売却による収入	9,260
貸倒引当金の増減額(△は減少)	679,205	加入者負担金収入	5,210,000
受取利息及び受取配当	△915,387	補償金収入	23,086,520
支払利息	22,847,414	未収金の増減額(△は増額)	172,800
未収金の増減額(△は増額)	7,050,022	未払金の増減額(△は減少)	0
未払金の増減額(△は減少)	△6,500,486	計	△65,813,481
たな卸資産の増減額(△は増加)	984,857	(財務活動)	
引当金の増減額	△10,344,000	建設改良等の財源に充てるための企業債による収入	0
預り金の増減額	△467,212	建設改良等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△65,724,599
長期前受補助金等戻入額	△50,127,554	計	△65,724,599
固定資産除却費	4,599,386		
小計	130,386,733		
利息及び配当金の受取額	915,387		
利息の支払額	△22,847,414		
計	108,454,706		
		現金及び現金同等物の増減額	△23,083,374
		現金及び現金同等物の期首残高	1,031,799,492
		現金及び現金同等物の期末残高	1,008,716,118

当年度の営業活動によるキャッシュ・フローは、108,454,706 円の黒字、投資活動によるキャッシュ・フローは 65,813,481 円の赤字、財務活動によるキャッシュ・フローは 65,724,599 円の赤字で、当年度キャッシュ増減額は 23,083,374 円のマイナスとなっている。期首キャッシュ残高 1,031,799,492 円に対し、期末残高は 1,008,716,118 円に減少している。

(6) 審査所見

平成28年度の決算状況を見ると、41,412,413円の黒字となっている。しかしながら有収率は72.0%と漸減しており、総務省平成27年度の水道事業経営指標によると有収率の全国平均は90.0%、給水人口1.5万人から3万人は82.9%となっており、その数字を大きく下回っている。

水道料金の未収金は水道利用者の負担の公平性や健全な事業経営を図る上で根幹をなすものであるため、有収率と共に成果が上がるように、速やかな対応と今後の収益の確保により一層努められたい。

今後は市の人口減少が予測されている。人口減少に伴う給水人口の減少、水道施設の維持更新、地震災害への施設整備の対応など水道事業を運営していくうえで今後取り組んでいかなければならない課題が山積している。

水道事業は市民生活を支える重要な役割を担っているため、水道事業を進めるなかで、収益の確保や経費抑制などへの取り組みを強化し、安定した経営基盤作りを図られたい。

勝沼ぶどうの丘事業会計

(1) 業務の実績について

業務実績は、以下に示すとおりである。

業務実績比較

(単位：人[延])

部 門		平成 28 年度	平成 27 年度	比較増減
施設 利用	宿 泊	15,214	15,422	△208
	休 憩 ・ 会 議	3,465	3,160	305
	売 店	118,779	168,331	△49,552
	温 泉	103,250	112,515	△9,265
	美 術 館	8,541	7,651	890
	ト ン ネ ル	8,354	13,719	△5,365
	食 事	151,522	165,217	△13,695
	レ ス ト ラ ン	53,375	50,106	3,269
	宴 会	3,254	3,302	△48
	バ ー ベ キ ュ ー	24,850	31,122	△6,272
	温 泉 ラ ウ ン ジ	38,651	44,467	△5,816
	美 術 館 カ フ ェ	2,346	2,716	△370
	駅 ワ イ ン シ ョ ッ プ	9,775	12,129	△2,354
	思 蓮	19,271	21,375	△2,104
利 用 者 合 計		409,125	486,015	△76,890

年間の利用状況において、部門ごとの利用者数は合計 409,125 人で前年度と比較して 76,890 人減となった。

(2) 予算の執行状況について

予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には消費税、地方消費税及び入湯税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
事業収益	1,036,156,000	964,416,414	△71,739,586	93.1
営業収益	1,031,860,000	961,322,343	△70,537,657	93.2
営業外収益	4,269,000	3,094,071	△1,201,929	72.5

収益的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
事業費用	1,021,432,000	956,822,736	64,609,264	93.7
営業費用	986,994,000	931,432,136	55,561,864	94.4
営業外費用	34,338,000	25,390,600	8,947,400	73.9
予備費	100,000	0	100,000	0.0

事業収益は964,416,414円(うち仮受消費税及び地方消費税70,532,004円、入湯税9,133,200円)で、予算額と比べ71,739,586円(6.9%)の減であり、事業費用は956,822,736円(うち仮払消費税及び地方消費税54,603,550円、消費税及び地方消費税相当額15,929,900円、入湯税9,133,200円)で、予算額に対し64,609,264円(6.3%)の不用額が生じている。

資本的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額の比較増減	収入率(B)/(A)
資本的収入	0	0	0	—

資本的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
資本的支出	62,976,000	60,206,484	2,769,516	95.6

資本的収入は 0 円で、資本的支出は 60,206,484 円（うち仮払消費税及び地方消費税 1,684,760 円）で、予算額に対し 2,769,516 円（4.4%）の不用額が生じている。

(3) 経営成績について

経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

比較損益計算書

(単位：円・%)

科目	区分	平成 28 年度 決 算 額	平成 27 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
事 業 収 益		884,751,210	957,950,200	△73,198,990	92.4
	営 業 収 益	881,658,619	957,669,959	△76,011,340	92.1
	営 業 外 収 益	3,092,591	280,241	2,812,350	著増
事 業 費 用		879,203,732	939,829,219	△60,625,487	93.5
	営 業 費 用	878,890,381	939,702,665	△60,812,284	93.5
	営 業 外 費 用	313,351	126,554	186,797	247.6
	特 別 損 失	0	0	0	0
当年度純利益		5,547,478	18,120,981	△12,573,503	30.6

決算書の損益計算書でみるとおり、事業収益は 884,751,210 円で前年度比 73,198,990 円 (7.6%) の減であり、事業費用も 879,203,732 円で前年度比 60,625,487 円 (6.5%) の減となった。

その結果、本年度の純利益は 5,547,478 円となった。

ア 収益

営業収益は 881,658,619 円で、前年度比 76,011,340 円の減であり、これは主に、売店収益 51,695,670 円の減などによるものである。また、営業外収益は 3,092,591 円で、前年度比 2,812,350 円の増であり、これは、新商品開発等事業補助金などの増によるものである。

イ 費用

営業費用は 878,890,381 円で、前年度比 60,812,284 円の減であり、これは主に、販売費 57,281,362 円の減などによるものである。次に、営業外費用は 313,351 円で、前年度比 186,797 円の増である。

(4) 財政状況について

財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・%)

科目	区分	平成 28 年度 決 算 額	平成 27 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
借 方 (資 産)		855,673,645	845,486,733	10,186,912	101.2
	固定資産	571,648,505	518,765,833	52,882,672	110.2
	流動資産	284,025,140	326,720,900	△42,695,760	86.9
貸 方 (負 債 ・ 資 本)		855,673,645	845,486,733	10,186,912	101.2
	固定負債	9,680,796	7,479,864	2,200,932	129.4
	流動負債	68,544,590	66,106,088	2,438,502	103.7
	資 本 金	589,779,039	589,779,039	0	100.0
	剰 余 金	187,669,220	182,121,742	5,547,478	103.0

財政状況については、決算書の貸借対照表でみるとおり、資産合計及び負債・資本合計は共に 855,673,645 円で、前年度比 10,186,912 円(1.2%)の増となっている。

ア 資産

固定資産は 571,648,505 円で前年度比 52,882,672 円の増であり、これは主に、土地 39,702,224 円の増、建物付属設備 15,676,575 円の増などによるものである。また、流動資産は 284,025,140 円で、前年度比 42,695,760 円の減であり、これは、未収金 2,618,067 円、貯蔵品 6,260,920 円の増、現金預金 51,574,747 円の減によるものである。

イ 負債

固定負債は 9,680,796 円で前年度比 2,200,932 円の増であり、長期リース負債の増などによるものである。また、流動負債は 68,544,590 円で前年度比 2,438,502 円の増であり、これは主に、未払金 2,228,139 円の増などによるものである。

ウ 資本

資本金は 589,779,039 円で、前年度と同額である。また、剰余金は 187,669,220 円で、前年度比 5,547,478 円の増であり、これは主に、利益剰余金 5,347,478 円の増などによるものである。

(5) 資金収支の状況について

資金収支の状況は、次表のとおりである。

キャッシュフロー計算書（間接法）

（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

（単位 円）

(業務活動)		(投資活動)	
当年度純利益（△は純損失）	5,547,478	有形固定資産の取得による支出	△65,779,587
減価償却費	12,525,515	保証金の返金による収入	571,400
受取利息及び受取配当金	△248,185	積立基金への振替	△200,000
未収金の増減額(△は増額)	△2,618,067	計	△65,408,187
未払金の増減額(△は減少)	2,228,139	(財務活動)	
たな卸資産の増減額(△は増加)	△6,260,920	他会計からの出資による収入	0
引当金の増減額（△は減少）	335,975	計	0
預り金の増減額	△125,612		
長期リース負債	2,200,932		
小計	13,585,255		
利息及び配当金の受取額	248,185		
計	13,833,440		
		資金増加額	△51,574,747
		資金期首残高	283,345,832
		資金期末残高	231,771,085

当年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、13,833,440円の黒字、投資活動によるキャッシュ・フローは65,408,187円の赤字、財務活動によるキャッシュ・フローは0円で、当年度キャッシュ増減額は51,574,747円のマイナスとなっている。期首キャッシュ残高283,345,832円に対し、期末残高は231,771,085円に減少している。

(6) 審査所見

平成 28 年度の経営状況は、秋の台風などの天候不順により利用者は前年度比 76,890 人の減となっている。

決算状況を見ると、観光客減少の要因を受け、当年度純利益 5,547,478 円であり、利益率は 0.58%で、前年度比 1.16%の減となっている。

また、28 年度に策定した「甲州市勝沼ぶどうの丘事業経営戦略」に基づき、観光拠点施設として、時代のニーズに適した運営を行い、今後の施設・設備の老朽化に伴う修繕費用の増加等の要因を考慮して、更なる経費削減や利用者の増加につながる営業努力に取り組むよう求める。

会計事務処理について、前回の決算審査、昨年定期監査において細かな指摘事項があったがおおむね改善されており、今後も適切な会計処理を行われたい。

勝沼病院事業会計

(1) 業務の実績について

業務実績は、以下に示すとおりである。

業務実績比較

区 分	単位	平成 28 年度		平成 27 年度		比較増減	
		入院患者	外来患者	入院患者	外来患者	入院患者	外来患者
年 間 延 人 数	人	11,864	17,075	10,933	17,848	931	△ 773
1 日 平 均	人	32.5	58.1	29.9	60.5	2.6	△ 2.4
病 床 利 用 率	%	63.7	—	58.6	—	5.1	—
診 察 日 数	日	—	294	—	295	—	△1

入院患者は延べ 11,864 人で前年度と比較して 931 人（一日平均 2.6 人）増、外来患者は延べ 17,075 人で前年度比 773 人（一日平均 2.4 人）の減、病床利用率は 63.7%で前年度比 5.1%の増となっている。

(2) 予算の執行状況について

予算及び決算の内容は、以下に示すとおりである。

なお、下記の表の金額には、消費税及び地方消費税が含まれている。

収益的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額 の比較増減	収入率(B)/(A)
病院事業収益	25,283,000	23,933,451	△1,349,549	94.7
医業外収益	25,283,000	23,933,451	△1,349,549	94.7

収益的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
病院事業費用	25,283,000	23,885,472	1,397,528	94.5
医業費用	22,551,000	21,452,725	1,098,275	95.1
医業外費用	2,731,000	2,432,747	298,253	89.1
予備費	1,000	0	1,000	0.0

事業収益は 23,933,451 円で、予算額と比べ 1,349,549 円 (5.3%) の減であり、事業費用は 23,885,472 円 (うち仮払消費税 76,800 円) で、予算額に対し 1,397,528 円 (5.5%) の不用額が生じている。

資本的収入

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	予算額と決算額 の比較増減	収入率(B)/(A)
資本的収入	10,545,000	8,625,164	△1,919,836	81.8
一般会計負担金	10,525,000	8,565,000	△1,960,000	81.4
企業債	0	0	0	-
基金積立金利息	20,000	60,164	40,164	著増

資本的支出

(単位：円・%)

科目 \ 区分	予算額(A)	決算額(B)	不用額	執行率(B)/(A)
資本的支出	22,726,000	19,609,741	3,116,259	86.3
建設改良費	12,080,000	8,964,000	3,116,000	74.2
企業債償還金	10,626,000	10,625,741	259	100.0
基金積立金	20,000	20,000	0	0.0

資本的収入は8,625,164円で、予算額と比べ1,919,836円(18.2%)の減であり、資本的支出は19,609,741円で、予算額に対し3,116,259円(13.7%)の不用額が生じている。

(3) 経営成績について

経営損益の状況は、以下に示すとおりである。

比較損益計算書

(単位：円・%)

科目	区分	平成 28 年度 決 算 額	平成 27 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
病院事業収益		23,933,451	24,016,980	△83,529	99.7
	医 業 収 益	0	0	0	-
	医業外収益	23,933,451	24,016,980	△83,529	99.7
病院事業費用		23,808,672	23,890,142	△81,470	99.7
	医 業 費 用	21,375,925	20,921,475	454,450	102.2
	医業外費用	2,432,747	2,968,667	△535,920	81.9
当年度純利益		124,779	126,838	△2,059	98.4

当病院事業会計は、財産管理業務を行っている。

なお、医療業務は指定管理者制度により、公益財団法人山梨厚生会が運営している。

ア 収益

医業外収益は 23,933,451 円で、前年度比 83,529 円の減である。これは、受取利息及び配当金 35,211 円、長期前受金戻入 875,250 円の増であり、他会計負担金 994,000 円の減によるものである。

イ 費用

医業費用は 21,375,925 円で、前年度比 454,450 円の増であり、これは、減価償却費 963,000 円、経費 111,450 円の増であり、修繕費 620,000 円の減などによるものである。また、医業外費用は 2,432,747 円で、前年度比 535,920 円の減であり、これは、支払利息 171,212 円、雑損失 364,708 円の減によるものである。

(4) 財政状況について

財政の状況は、以下に示すとおりである。

比較貸借対照表

(単位：円・%)

科目	区分	平成 28 年度 決 算 額	平成 27 年度 決 算 額	比較増減	前年度に対 する比率
借 方 (資 産)		567,609,170	573,686,876	△6,077,706	98.9
	固定資産	524,615,521	536,111,146	△ 11,495,625	97.9
	流動資産	42,993,649	37,575,730	5,417,919	114.4
貸 方 (負 債 ・ 資 本)		567,609,170	573,686,876	△6,077,706	98.9
	固定負債	69,160,170	79,871,748	△10,711,578	86.6
	流動負債	10,711,578	10,625,741	85,837	100.8
	繰延収益	46,060,835	41,657,579	4,403,256	110.6
	資 本 金	354,507,213	354,507,213	0	100.0
	剰 余 金	87,169,374	87,024,595	144,779	100.2

資産合計及び負債・資本合計は共に 567,609,170 円となり、前年度比 6,077,706 円 (1.1%) の減となった。

ア 資産

固定資産は 524,615,521 円で前年度比 11,495,625 円の減であり、これは土地以外の減価償却累計などによるものである。また、流動資産は 42,993,649 円で、前年度比 5,417,919 円の増であり、これは、現金及び預金の増によるものである。

イ 負債

固定負債は 69,160,170 円で前年度比 10,711,578 円の減であり、これは、建設改良等の財源充当企業債の減によるものである。次に、流動負債は 10,711,578 円で前年度比 85,837 円の増であり、これは、建設改良等の財源充当企業債の増によるものである。また、繰延収益は 46,060,835 円で前年度比 4,403,256 円の増であり、これは長期前受金 8,565,000 円の増、収益化累計額 4,161,744 円の減によるものである。

ウ 資本

資本金は 354,507,213 円で、前年度と同額である。また、剰余金は 87,169,374 円で、前年度比 144,779 円の増であり、これは、利益剰余金のうち繰越利益剰余金 126,838 円の増であり、当年度末処分利益剰余金の 2,059 円の減によるものである。

(5) 資金収支の状況について

資金収支の状況は、次表のとおりである。

キャッシュフロー計算書（間接法）

（平成28年4月1日から平成29年3月31日まで）

（単位 円）

(業務活動)		(投資活動)	
当年度純利益	124,779	有形固定資産の取得による支出	△8,300,000
減価償却費	19,815,625	<u>一般会計又は他の特別会計からの繰入金による収入</u>	
長期前受金戻入額	△4,161,744		<u>8,565,000</u>
受取利息及び受取配当金	△40,707		計 265,000
支払利息	1,691,947	(財務活動)	
	小 計 17,429,900	<u>建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還に</u>	
利息及び配当金の受取額	40,707	<u>よる支出</u>	<u>△10,625,741</u>
利息の支払額	△1,691,947		計 △10,625,741
	計 15,778,660		

資金増加額	5,417,919
資金期首残高	37,575,730
資金期末残高	42,993,649

当年度の業務活動によるキャッシュ・フローは、15,778,660円の黒字、投資活動によるキャッシュ・フローは265,000円の黒字、財務活動によるキャッシュ・フローは10,625,741円の赤字で、当年度キャッシュ増減額は5,417,919円のプラスとなっている。期首キャッシュ残高37,575,730円に対し、期末残高は42,993,649円に増加している。

(6) 審査所見

甲州市は、当病院事業会計の財産管理面の運営を行い、平成 28 年度は、キュービクル改修工事及び、圧縮空気供給装置及びメディカルエアユニット部品取替え工事を行った。

今後も、医療業務の指定管理者である公益財団法人山梨厚生会との連携の下、市民の要望にも配慮され、地域に密着した医療機関として、一層の医療体制の整備と効率的な運営に取り組み、今後とも良質な医療の提供を継続されたい。